

序 章	近代日本の勸農政策と植民地朝鮮	3
第一節	本書のねらい	3
第二節	勸農政策の形成	7
第三節	勸農政策の展開	14
第四節	朝鮮植民地農政の再検討	20
第一部	植民地朝鮮における勸農政策の形成——一九一〇年代	31
第一章	併合前後期の朝鮮における勸農機構の移植過程	34
第一節	農学者本田幸介と朝鮮	35
第二節	酒匂常明の朝鮮農業認識——移住地としての朝鮮	40
第三節	吉川祐輝の朝鮮農業認識	45
第四節	「韓国土地農産調査」と勸農機関設置構想	49
第五節	農事試験研究機関の開設	54
(1)	勸業模範場の創設	54
(2)	種苗場の設置	59
第六節	農業教育機関の開設	60

(1)	水原農林学校の創設	60
(2)	農業学校の設置	61
第七節	農業団体の設置——韓国中央農会……	63
小括	……	66
第二章	朝鮮における勸農政策の本格的開始……	81
第一節	併合前後期における勸農方針の確立……	81
第二節	農事改良の開始——米を中心に……	89
第三節	勸農機構の整備……	104
(1)	勸業模範場・種苗場	104
(2)	水原農林学校・農業学校	111
(3)	朝鮮農会・部門別農業団体	123
小括	……	129
第三章	朝鮮における普通学校の農業科と勸農政策……	139
第一節	農業科の普及……	141
(1)	農業科の準必修科目化	141
(2)	日本内地の高等小学校における農業科の定着	145
(3)	併合前後期の実業教育重視方針と戊申詔書	148
第二節	農業科の内容——学校内での農業教育……	153

第三節	勸農機関としての普通学校——学校外での農業教育……………	161
第四節	植民地農政の「担い手」育成のはじまり……………	170
第五節	簡易農業学校の設置——朝鮮の実業補習学校前史……………	178
(1)	法令上の位置……………	178
(2)	設置状況と入学者動向……………	180
(3)	農業教育の内容……………	184
(4)	卒業生動向……………	187
小括……………		189
第二部	植民地朝鮮における勸農政策の展開——一九二〇年代……………	201
第四章	朝鮮農会令制定と勸農政策……………	204
第一節	勸農政策の転換——朝鮮農会令立案審議の開始……………	206
第二節	産業調査委員会の開催……………	212
第三節	「産米増殖計画」更新と朝鮮農会令……………	215
第四節	朝鮮における系統農会の成立……………	223
第五節	朝鮮農会の組織と事業……………	229
(1)	事業内容……………	229
(2)	中央農会と地方農会……………	236
(3)	朝鮮農会の力量——帝国農会との比較……………	243

第六節	一九二〇年代の勸農機関の動向……………	247
(1)	勸業模範場から農事試験場へ……………	247
(2)	水原高等農林学校・農業学校……………	254
小括	……………	259
第五章	「産米増殖計画」と農業教育の再構築……………	271
第一節	三・一独立運動の衝撃……………	273
第二節	第二次朝鮮教育令における普通学校農業科……………	276
第三節	普通学校農業科の継続と変化——一九二〇年代前半……………	282
第四節	農業教育の再構築——普通学校と実業補習学校……………	290
第五節	日本内地の実業補習学校制度の導入……………	298
第六節	植民地農政の「担い手」育成過程の整備……………	302
小括	……………	316
第六章	地域社会における植民地農政の「担い手」育成……………	323
第一節	江原道における農業教育……………	323
(1)	農業教育振興規程の制定……………	323
(2)	農業教育の普及と実業補習学校……………	335
第二節	「更新計画」下における実業補習学校の拡充……………	349
第三節	普通学校における職業科の新設……………	361

第四節	京畿道における卒業生指導制度の開始	379
小括	369

終章 朝鮮植民地農政の確立

第一節	勸農政策の特徴	384
第二節	勸農機関のその後	391

- (1) 農事試験場・道農事試験場 391
- (2) 水原高等農林学校・農業学校 391
- (3) 朝鮮農会 395

初出一覧

あとがき

関連年表

索引

序章 近代日本の勸農政策と植民地朝鮮

第一節 本書のねらい

植民地統治下の朝鮮農業について考えるとき、そこには日本との間の支配・被支配の関係が厳然と横たわっている。だがその前に、農業とは何かについて一度確認しておくことは極めて重要である。

農業とは、植物がもつ生命のサイクルを人間が手助けすることで、生活を支える食料や原材料を生産する営みである。その根源にあるのは、人間の力ではなく、あくまで植物自身の光合成である。農業の主な生産手段は、土地と土壌である。土地の豊かさや土壌のよしあしが生産を左右するため、古くから人間は念入りに手を加えて農地を作り上げてきた。また、そもそも農業は、野外の自然の中で生産を行うため、雨、風、気温などの影響を大いに受ける。このように農業は、常に気候や風土から決定的な制約を受ける産業であるから、効率性を求める市場経済とは本質的になじまない。そこで国家は、農産物の生産・供給や価格など諸問題に対する対応・緩和政策として農業政策を行うのである。⁽¹⁾

さて、近代日本における農業政策は、一貫して農業生産力の向上と食料自給の確保を政策理念とした。なかで

表1 朝鮮主要農作物の生産高指数

	米	麦	雑穀	豆	いも	野菜	綿花
1912	100	100	100	100	100	100	100
1913	111	117	114	102	161	114	114
1914	130	108	102	103	196	127	114
1915	118	118	111	110	259	148	138
1916	128	116	121	117	297	155	138
1917	126	122	128	120	327	173	210
1918	141	136	138	138	378	179	225
1919	117	121	92	82	369	148	282
1920	137	132	159	132	449	194	332
1921	132	138	143	126	449	184	276
1922	138	126	125	119	441	175	343
1923	140	110	127	124	373	147	369
1924	122	130	120	94	356	159	399
1925	136	137	116	123	384	177	406
1926	141	129	115	118	383	183	469
1927	159	122	119	127	411	197	440
1928	124	118	123	101	395	165	494
1929	126	126	123	106	484	193	458
1930	177	133	129	119	506	177	488
1931	146	138	107	110	432	174	335
1932	150	143	125	117	618	184	446
1933	167	134	118	121	543	188	461
1934	154	143	88	104	445	193	449
1935	165	158	112	118	611	192	618
1936	179	135	119	101	697	174	397
1937	247	188	134	114	790	196	695
1938	222	151	118	104	754	207	609
1939	132	165	110	62	669	147	609
1940	198	157	99	89	741	196	541

(出典) 朝鮮総督府編纂『朝鮮総督府統計年報』昭和7年版(朝鮮総督府、1934年)98~105・108~109頁、『同』昭和15年版(朝鮮総督府、1942年)44~51頁より作成。

(備考) 米は水稻・陸稻、麦は大麦・小麦・裸麦・燕麦、豆は大豆・小豆・緑豆・落花生など、雑穀は粟・稗・黍・蜀黍・玉蜀黍、いもは甘藷・馬鈴薯、野菜は大根・白菜、綿花は陸地棉・在来棉のそれぞれ合計である。

も明治・大正期に見られた農業生産力の向上は、産業革命の飛躍的發展に大きく貢献した。一方この時期は、日本が日清・日露戦争を経て朝鮮・台湾を植民地化するなど、拙速に帝国主義の道へと踏み出した時期でもあった。それでは、日本が植民地支配を行ったこれらの地域でも、果たして農業生産力の向上は起こったのであろうか。この素朴な疑問に答えるため、植民地朝鮮における農業生産力の変化を統計的に確認する作業から本書をはじめめる。

植民地統治下の一九一二〜四〇年における朝鮮の主要農作物生産高の推移を見ていこう。表1と図1、図2は、朝鮮で生産された農作物のうち、米・麦・雑穀・豆・いも・野菜・綿花(工芸作物の代表として)について、一九一二年の生産高を一〇〇とした指数でそれぞれの変化を表したものである。

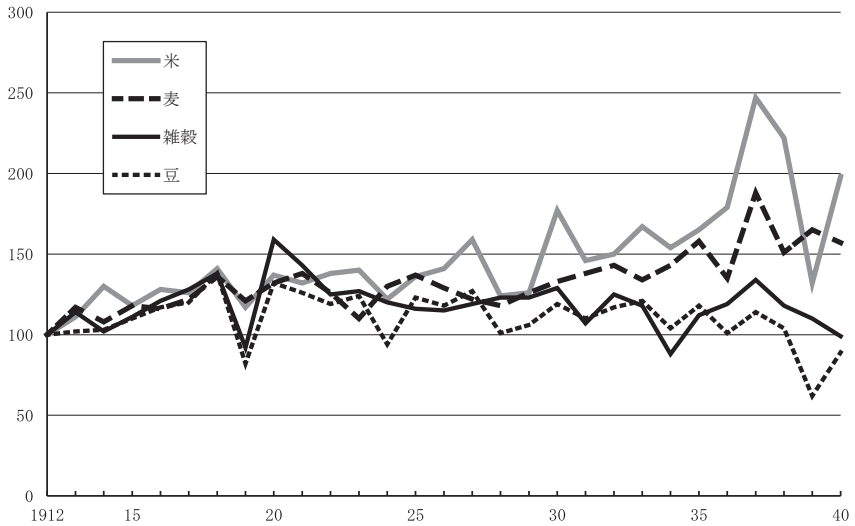


図1 朝鮮主要農作物の生産高指数(1)

(出典)表1と同じ。

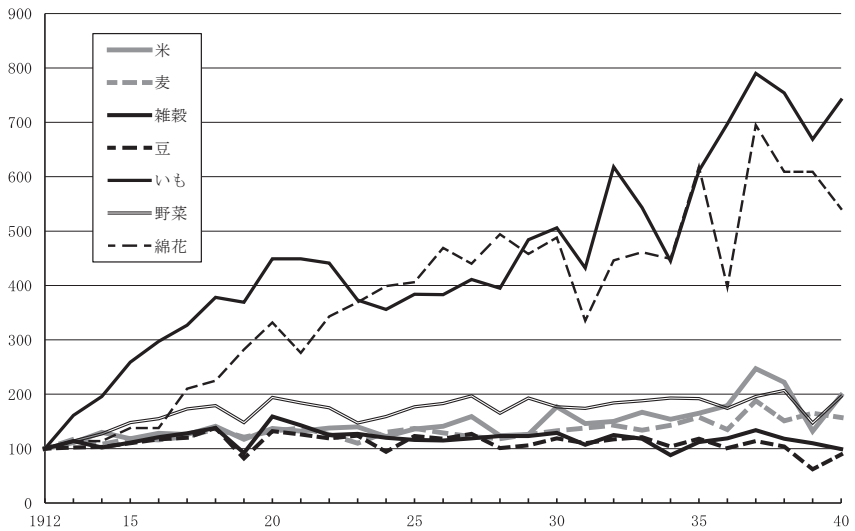


図2 朝鮮主要農作物の生産高指数(2)

(出典)表1と同じ。

朝鮮農業で最も重要な農作物は、日本と同じく米（米穀）であった。日本は一八九七年（明治三〇）を境に恒常的な米穀輸入国に転じたことから、植民地朝鮮での米の増産と移出は、農政の主要課題であった。農作物であるから、当然その年の天候に左右される部分が大きいが、植民地期全体を通してみると、米の生産高は緩やかな上昇傾向を見せる。特に、三〇年代以降の上昇は顕著であり、一九一二年と比較して一・五〜二倍程度の水準に達している。

米以外の農作物ではどうか。穀物では、麦が米に近い傾向を示し、三〇年代には生産高が一・五〜一・八倍になっている。反対に雑穀や豆の生産高はあまり伸びず、三〇年代後半以降は低下傾向を見せている。残る野菜は二倍近くに、いもは六〜七倍に、綿花は五〜六倍に生産高が上昇している。

ここで敢えて朝鮮の貿易状況や朝鮮人の食生活を脇に置くとすれば、朝鮮の農業生産力は植民地期を通じて着実に向上していたことは明らかである。では、なぜ植民地朝鮮で農業生産力の向上が実現したのか。これが本書の根本的な問いである。

そこで、本書では、この問いを解く鍵として、勸農政策に注目した。勸農政策とは、経験的知識を主とする在来地・在来農法に代わって、科学の実験・分析を主とする近代農学を導入することによって農業生産力の向上を目指す諸政策のことであり、その過程で新しい農業技術の試験研究や普及、およびその担い手となる人材の育成を目的とする一連の体系的機構が創設・整備されていくものと定義できる。この体系的機構とは、具体的にいえば、農事試験研究機関（中央・地方の農事試験場など）、農業団体（農会など）、農業教育機関（農業学校など）の主に三つの機関から構成される。

勸農政策は、最初に宗主国の日本からはじまり、時間を置いて植民地の朝鮮（や台湾）へと波及した。近代日本における勸農政策は、おおむね殖産興業政策から明治農政の時期と重なる。いうなれば、大正期から現在まで

続く近代農学を技術的基盤とした農業政策の草創期・助走期と表現できよう。明治期の勸農政策を経て、農事関係機関・団体が体系的に整備され、またそれが安定的に機能することによって、初めて近代的農業政策が確立され、本格的な展開をはじめることになったのである。

本書の目的は、日露戦争後日本の保護国となり（一九〇五年）、その後植民地（一九一〇～四五年）となった朝鮮において、この勸農政策が日本からどのように移植され、どのような植民地独自の形成と展開を見せたのかを解明することである。別のいい方をすれば、朝鮮の植民地農政を、技術普及と人材育成という勸農政策の視点から照射することを通じて、近代農学の導入・定着過程として新たに描き直すことを目標としている。

第二節 勸農政策の形成

◆大久保利通の勸農政策

それでは、植民地朝鮮の勸農政策について論じる前に、まずその前提となる日本の勸農政策の形成と展開について概観する。

近代日本における勸農政策（農業奨励政策）の端緒は、明治初期に当たる一八六九～七三年（明治一～六）の時期にさかのぼる。明治維新を経て誕生したばかりの新政府は、欧米列強と対峙するために国力の増進を目指し、当時基幹産業であった農業の振興に力を入れた。

勸農政策の担当機関は、民部省と大蔵省であった。まず最初に実施されたのが、政府と東京府による下総開墾である。これは幕末維新期の混乱を経て東京府等に滞留していた窮民を、下総小金原に移送し開墾に従事させるものであり、開墾事業よりもむしろ治安維持策の性格を帯びたものであった。ほどなくして禄制改革の進行と土族の窮迫化にともなって土族授産の重要性が増してくると、土族移住による東北地方の荒蕪地開墾事業が登場す

あとがき

大阪で生まれ育った私が、熊本で暮らすようになって一〇年余りが過ぎた。相変わらず熊本弁が移ることはないが、大阪弁は幾分マイルドになった。熊本の長くて暑い夏と短くて寒い冬にはいまだに慣れないけれども、それなりに対応できるようになった。

九州に来たことで私の研究環境は大きく変わったが、本書をまとめる中で最もお世話になったのは、九州大学箱崎キャンパスの中央図書館である。中央図書館には『朝鮮農會報』など朝鮮農業関係の資料が数多く所蔵されており、熊本から日帰りで訪問できることもあつて頻繁に利用した。図書館は箱崎キャンパスの農学部の一角にある。九州大学農学部は、本田幸介が初代学部長を務めたほか、大工原銀太郎、加藤茂苞など植民地朝鮮と深い結びつきをもっていた。敷地内には農学部実験室（一九二一年竣工）や農学部附属演習林本部（現熱帯農業研究センター、一九三一年竣工）など歴史的建築物がいまもいくつか残されている。調査に疲れて図書館の周りを散歩すると、かつて本田幸介たちがいた農学部の面影を感じることができる。本書をまとめ上げる長く地道な作業の中で、この格別の空間は私の大きな原動力となった（中央図書館は二〇一八年夏に伊都キャンパスに移転する）。

さて、本書につながる研究の原点は、朝鮮農会について調べた卒業論文（一九九六年一月提出）にかのぼる。子どもの頃から歴史物が好きだった私は、大学では文学部史学科東洋史学専攻に進んだ。大学二年の終わりから卒業論文のテーマを探す中で、「日本史も好きだし、中国史も好きだし、その間の朝鮮史だったら両方でできるのでは」というかなり安易な発想で、まずは植民地時代の朝鮮を研究対象に定めた。当時はインターネットもデータベースもほとんど普及していない時代である。図書館のカードをめくり、本や論文を数点読んでみたものの、自分の気持ちに引つかかるような具体的なテーマは見つからなかった。

大学時代で最も印象に残っているのは、当時大阪市立大学にお勤めだった北村秀人先生とのマンツーマン授業である。内容は、高麗史に関する漢文史料（それも先生の手書き）を講読するというものだった。いま振り返ってみると史料の意味をほとんど理解できていなかったように思う。しかし、狭い文学部のゼミ室で窓から陽射しが差し込む中、先生と二人で史料と向き合うというあの時間は、私の中に鮮明な記憶として焼きついている。

まもなく私は、北村先生との雑談や大阪・鶴橋にあった韓国関係の専門書店での立ち読みから、青丘文庫の存在を知ることになる。

青丘文庫は、神戸市長田区でケミカルシューズ工場を経営しておられた在日一世の韓哲曦ハルソクキさんが、私財を投じて一九六九年（昭和四四）に開設された朝鮮関係専門の図書館である。最初は長田の工場ビル内にあったそうだが、私が訪ねた頃は須磨寺近くの自宅マンションの一フロアに移転していた。

初めて青丘文庫を訪問した時のこと、ただ黙って少し窮屈な書棚の間をウロウロする私の様子を見て、韓さんが「何の本を探してんの？」と声をかけられた。私が「植民地時代の朝鮮の農業とかで卒

論を書こうかと……」と答えると、すぐに「その本見てたら何か出てくるわ」と『朝鮮農会報』（韓国・以文社影印版）を指差された。このときから私は朝鮮農会について調べることになった（青丘文庫は、阪神・淡路大震災を契機として神戸市立中央図書館に寄贈・移転された）。

これ以降、私は大学院に進学し、修士課程・博士課程でも朝鮮農会の研究を続けた。しかし、朝鮮農会という研究テーマは、率直にいつて自分の力量をわきまえずに選んでしまった相当に困難なテーマであった。朝鮮農会発行の機関紙『朝鮮農会報』を開いても、記事は農業技術関係が中心で、随所に見られる作物・家畜・害虫・農具などの挿絵や写真は眺める分には楽しいけれども、完全な文系人間で史学科出身の私にはその内容はほとんど分からなかった。そもそも農会なる団体が何を目的としたという組織なのかすら、曖昧模糊としてはつきりと把握できなかつた。結局、博士論文の準備にとりかかる二〇〇四年（平成一六）頃まで暗中模索の状態に陥った。

この間、私は青丘文庫を拠点に開催されていた朝鮮民族運動史研究会、ついで朝鮮史研究会関西支部会に参加するようになり、朝鮮史のさまざまな分野の研究者に出会い、お話を伺う機会を得た。特に、当時京都大学人文科学研究所におられた水野直樹先生には、『京城日報』などの資料を自由に利用させていただいたほか、朝鮮史の研究・調査方法の基礎を教えていただいた。研究の方向性が皆目つかめなかつたあの時期に、朝鮮農会に関する学術論文をなんとか発表できたのは、水野先生の抑制のきいた指導と助言があったからこそである。

自らの研究によりやく光を見出すきっかけとなったのは、二年間にわたる韓国留学生活と関西農業史研究会との出会いであった。

私は、二〇〇一年（平成二三）二月末から韓国・ソウルにある延世大学大学院史学科に留学した。

韓国での留学生活は、環境・文化の違いもあって苦勞の多い毎日であった。なかでも史学科のゼミや講義は、運営方法や雰囲気は日本と全く異なり、戸惑いを覚えた。その一方で、ソウルや地方の公共図書館・大学図書館に出かけては朝鮮農業に関する資料を手当たり次第に集めたこと、そして、かつての総督府農事試験場や水原高等農林学校、地方の農業学校を訪ね歩いたことで、本書へとつながる数々の研究のヒントを見つけることができた。

もう一つの関西農業史研究会との出会いも、ちょっととした偶然のつながりからである。

大学院時代の指導教授である森紀子先生は、朝鮮史ではなく主に中国近世思想史がご専門であった。しかし、私にとっては逆にそれが幸運であったように思う。悪戦苦闘する私に先生はいつも客観的な助言と温かい励ましの言葉をかけつづけてくださった。史料を一言一句丁寧に読み込むという歴史学の最も大切な部分は、森先生と過ごした長い時間の中で吸収したものである。

そんな森先生が、大学の教員向け食堂で知り合われたのが、農学部 堀尾尚志先生である。おそらく朝鮮の農業史で苦しむ私のことが話題になる日があったのだろう。文学部と農学部がすぐ隣同士だったこともあり、ほどなくして私は森先生の紹介で堀尾先生の研究室を訪問した。留学から帰国直後の二〇〇三年（平成一五）春のことである。

初めてお会いしたとき、堀尾先生はお忙しく一五分程度しかお話できなかったが、開口一番、「歴史の人はただ史料を読んであだこうだと解釈を考えるけど、農学の知識で見るとこういう解釈しかできませんってすぐに分かるんだよね」と冗談っぽくおっしゃった。先生からすればごく当たり前のことを話されたのだが、歴史学の中で金縛り状態であった私にとっては、研究の新しい地平に気づかせていただいた奇跡的な瞬間だった。

その後、堀尾先生の紹介で関西農業史研究会に参加することになった。歴史学しか知らない私にとって、農学の専門的かつ高度な議論は分かるはずもなく、研究会ではひたすら耳学問に徹した。ただ次第に日本農業史や農業技術の話が何となく理解できるようになるにつれ、私は徐々に朝鮮史の枠組み・常識から解放されていった。その結果、博士論文では、日本と朝鮮を横断的に分析する勸農政策の視点から朝鮮植民地農政を再検討することを課題とした。日本農業史を新たに勉強したことで、長年雲のようにつかめなかつた朝鮮農会も、博士論文の中によりやく居場所を見つけた。

二〇〇八年（平成二〇）より就職した熊本学園大学では、良好な研究環境を用意していただいた。所属する外国語学部東アジア学科には、中国・台湾・韓国の言語・文学・地域研究の専門教員が同居しており、絶えず新鮮な刺激を受けることができる。また、東アジア学科の学生たちは素直で人懐っこく、それでいてさっぱりしている。彼らと話すと、全く新しい感覚で韓国・朝鮮を見つめる次の世代が確実に育ちつつあることを実感する。

熊本に移ってから、博士論文の延長線上で研究を続けた。博士論文を書き上げたものの、私の中で十分な達成感を得られなかつたためである。そんな気配を察したのか、一四年春に大阪経済大学の徳永光俊先生から、研究を一冊の本にまとめることを強く勧められた。以降、関西農業史研究会で報告の機会を与えられ、本全体の構想から細部の考察に至るまで数多くの貴重な助言をいただいた。最終的に本書の出版は、徳永先生から思文閣出版へご推薦いただくことで実現することになった。

なお、本書の内容の一部は、二〇〇九～一一年度（平成二一～二二）科研費（若手研究B）（課題番号21780215）、二〇一〇～二〇一一年度（平成二二～二三）科研費（若手研究B）（課題番号21780215）、二〇一〇～二〇一一年度（平成二五～二七）科研費（基盤研究C）（課題番号25450351）の助成を受けた研究成果である。

また、本書の刊行に当たり、熊本学園大学出版会の助成を受けたことを付記して謝意に代える。

本書は、思文閣出版新刊事業部の田中峰人編集長と井上理恵子さんに編集・校正を担当していただいた。お二人からの的確な指導や助言、またさりげない励ましなくしては本書は完成しなかった。一つの本を作り上げる幸福な時間を共有できたことと合わせて、厚く御礼申し上げます。

このほかお名前を挙げることはできないが、今日までご指導くださったすべての方々に感謝申し上げます。

最後に私事ながら、両親に心から感謝の気持ちを贈ります。私が農業と技術に興味をもったのは、幼少期の夏休みに過ごした田舎での経験と両親の仕事する姿に影響を受けたところが大きい。また、いつも明るく大阪の空気で私を支えてくれる妻幸江に感謝したい。本当にありがとう。

二〇一八年六月 熊本にて

土井浩嗣

索引

(人名／事項)

※原則として日本語の発音によって配列した。

【人名】		か	
		貝沼彌蔵	221
		影山秀樹	63
		桂太郎	50, 148
		加藤完治	348
		加藤茂苞	247, 248, 252, 307, 391
		加藤末郎	44
		加藤高明	220
		加藤友三郎	217
		鴨下松次郎	38, 50
		河合和男	24, 204
		河野卓爾	368, 369
		き	
		菊地良樹	358~361
		吉川祐輝	34, 36, 52, 66, 82
		清浦奎吾	19, 50, 217, 241, 295
		け	
		ケルネル	8, 66
		こ	
		黄鉉周	377
		高宗	21
		古在由直	10, 49
		呉成哲	140
		小林房次郎	49
		小松原英太郎	148, 149
		さ	
		崔景錫	21
		斎藤実	23, 204, 206, 221, 254, 271, 273, 290, 293, 305, 306, 328, 373, 387
		向坂幾三郎	100
		酒匂常明	
			8, 16, 34, 45~50, 52, 54~66, 82, 384
		澤誠太郎	151
あ			
足立文次郎	228		
有吉忠一	218, 295		
安宗洙	20, 21		
い			
池上四郎	349, 350, 352, 353		
石川良道	63		
伊藤博文	39, 54, 55, 85		
稲葉継雄	140		
井上改平	359, 360, 372		
井上馨	10		
井上薫	273		
井上清	370		
井上毅	298		
今井田清徳	399		
う			
宇垣一成	24, 349, 389		
宇佐美勝夫	162, 167		
有働良夫	49		
お			
大内健	10		
大久保利通	7~9, 13		
大河内信夫	141		
大野謙一	272, 273		
大野緑一郎	404		
奥田貞次郎	63		
小田省吾	285, 287		
織田利三郎	164		

澤野淳	10
三羽光彦	141
し	
志岐守秋	10
品川弥二郎	9
柴田善三郎	274
渋田市造	120, 329
下岡忠治	
220~222, 259, 273, 296, 297, 317, 388	
朱奉圭	26
徐丙肅	61
愼鏞廈	23
す	
鈴木重礼	50
せ	
関屋貞三郎	151
そ	
曾田斧治郎	186, 187
染谷亮作	50
た	
大工原銀太郎	247, 248, 291
高橋敏	370
高橋昇	35, 409
武田総七郎	409
武部欽一	373
ち	
千葉敬止	343
つ	
津田仙	20, 21
土屋又三郎	99
て	
寺内正毅	
86, 87, 93, 126, 129, 149~152, 366	
天日常次郎	90~92
と	
富田晶子	25

豊永真里	63
な	
長野幹	291
中村彦	49, 63, 83, 90
に	
西村保吉	210
二宮尊徳	154
は	
萩原彦三	291
橋本左五郎	247, 285
初田太一郎	314, 315, 333, 334
浜尾新	298
林遠里	15, 16
原熙	38, 50
ひ	
久間健一	35
平井三男	307, 312, 313
平田東助	148, 149
ふ	
フェスカ	8, 14, 15, 66
福士末之介	367
福島百蔵	159
古川宣子	174
文定昌	407
ほ	
朴泳孝	399
本田幸介	34, 45, 49, 50, 55, 56, 61, 63, 65, 66, 81~83, 85, 103, 106, 113, 115, 126, 129, 208, 247, 386
ま	
前田正名	11, 12
松井房治郎	399
松岡長蔵	50
松方正義	9, 13
み	
水野錬太郎	204, 212, 271, 290
道家斉	63

南庄之助	144, 154, 164~166
南次郎	404
三成一郎	49
宮崎安貞	97
宮嶋博史	23
宮田節子	25
め	
目賀田種太郎	54
も	
森武彦	370
森崎實壽	275
森下一期	141
や	
八尋生男	370
山口宗雄	43, 44
山梨半造	273, 349, 361, 362, 379, 380
ゆ	
湯浅倉平	223, 232, 307, 308, 349
湯川又夫	391
弓削幸太郎	143
よ	
横井時敬	8, 10, 16
横田俊郎	311, 313
米田甚太郎	307, 370
り	
李完用	126
李軫鎬	303, 307
李正連	273
わ	
若松兎三郎	63
和田常市	63
渡辺忍	373
渡邊豊日子	223, 308, 309, 314

【事項】

あ	
赤米	91, 92
い	
一面一校計画	362
稲作論争	16
稲扱器	88, 92, 97, 99~102, 386, 387
維民会	214
う	
上田蚕糸専門学校	13
え	
燕岐公立普通学校	166
お	
欧米農業(泰西農法)	8, 15, 385
大蔵省	7, 13
大蔵省預金部	18, 221
か	
開拓使仮学校	8
会長(農会)	226, 227
『改良日本稲作法』	16
抱持立犁	15
化学肥料	232
学制実施ニ関スル件	156
学田	157
各道地方課長会議	223
各道内務部長会議	152
各道農業技術官会議	93, 252
各道農務課長会議	223, 231, 235
鹿児島高等農林学校	13
花山牧場	250
加設状況	143, 144, 282~285, 335, 336, 338
加設数	282~284, 304
加設率	282~284, 336, 338, 342
学校園	117, 156, 157, 190, 285, 304, 334

学校農業及手工実施要綱(江原道)	325, 326, 334, 338, 379
学校林	
117, 156, 158, 190, 285, 335, 369, 386	
学校林設営二関スル件	158
簡易実業学校	63, 178, 181, 298, 354
簡易実業専修学校	180
簡易農学校	13
簡易農学校規程	13
簡易農業学校	63, 94, 160, 177, 191, 298
灌溉の改良	90, 102
勸業費	206
勸業模範場	38, 48, 61, 65~67, 87, 94, 100, 115, 160, 178, 352, 385
勸業模範場開場式	55, 85
官公立農業学校長会議	
291, 293, 328, 329, 343	
『韓国出張復命書』	44
韓国政府	46, 48, 53, 55, 59
韓国政府学部	60, 62, 150
韓国政府農商工部	57, 59, 61, 83, 107
韓国中央農会	66, 67, 385
韓国中央農会設立の趣旨	63, 64
韓国中央農会第一回総会	63
韓国土地農産調査	34, 38, 55, 66, 67, 385
『韓国土地農産調査報告』	38
『韓国農業経営論』	45
『韓国農業要項』	50, 67
韓国併合に関する論告	86, 149
乾燥調製	87, 89, 92, 97, 386
乾田化	15, 16, 18
乾田牛馬耕	15~17
関東大震災	217, 293, 295, 387
勸農機関設置構想	45, 67
勸農局主務目的及臨時事業要目	9
勸農政策の終了	206, 251, 260, 389
勸農費	206
勸農要旨	9
漢文	172, 173, 184
き	
議員・役員の決定方法(農会)	225~227
義州公立農業学校	118, 121
技術見習生	249, 250
義務教育	146, 174, 299~302

牛疫	39
九州帝国大学	40, 247, 391
牛馬耕	17, 19
教育勅語	149
教育の實際化	140, 361~363, 380
郷校	157
強制加入	12, 211, 225, 259, 405
強制徴収	12, 211, 222, 225, 226, 241, 259
共同販売	127, 128, 230, 236, 260
近代学校	174, 191
金堤干拓出張所	253
金融組合	224, 236, 396, 400, 402~405
金融組合令	205
勤勞	153, 155, 190
く	
クネー	97
郡島農会	219, 226, 228, 236, 240~243, 245, 246, 396, 397, 399
け	
契	127
京城高等普通学校	159
京城高等普通学校附属臨時教員養成所	160
京城公立農業学校	294
系統農会	11, 12, 220, 222, 236, 238, 241, 354, 388, 390
原蚕種製造所	108
原州公立農蚕実修学校	345
こ	
江景公立普通学校	155
光州公立農業学校	169
光州公立普通学校	169
黄州公立普通学校	275
洪城公立普通学校	275
「更新計画」	23, 208, 221, 230, 231, 257, 259, 303, 304, 306, 308~310, 317, 361, 379, 380, 387, 388
耕地整理事業	17, 18, 23, 387
耕地整理法	18
高等小学校	139~141, 150, 152, 160, 161, 164, 190, 258, 301
高等普通学校	113, 114, 188, 257, 308

購入肥料(金肥) 17, 103, 205, 229~232, 253, 260, 311, 387, 388, 400
 興農論策 10~13, 16
 皇民化政策 390, 402, 405
 公民教育 300, 302, 317, 350, 352
 公立普通学校卒業者進路状況 175
 公立普通学校長講習会 162, 167
 公立普通学校内地人教員夏季講習会 160
 公立普通学校内地人教員講習会 144
 公立普通学校入学状況 175
 江陵公立蚕糸機業実修学校 345, 348
 拔箸 97
 国威宣揚祈願祭 402
 国語科 144, 189, 271
 国民高等学校 292
 国民精神総動員運動 405
 国民精神総動員朝鮮連盟 405
 国民総力運動 405, 406
 国民総力朝鮮連盟 405
 国民総力農山漁村生産報国運動 405
 国立農事試験場(日本) 11
 穀良都 87, 95
 小作慣行 229, 235, 236
 小作争議 229, 235, 236, 241, 300
 小作法 235, 239
 小作問題 229, 235, 236, 260, 235
 個人 373, 380
 古阜簡易農業学校 186
 駒場農学校 8, 10, 13~16, 34, 36, 40, 66

さ

サーベル農政 20, 26, 128, 130, 386
 在韓国日本人代表者会議 53
 財政規模(農会) 245, 246, 399
 札幌農学校 8, 13
 沙里院公立農業学校 311
 砂礫 91, 92
 三・一独立運動 23, 26, 271, 273, 325
 蚕業改良發達ニ関スル奨励ノ方針 87
 産業組合
 224, 236, 243, 399, 400, 402~405, 243
 蚕業試験所 108
 産業第一主義 220, 296
 産業調査委員会 291, 387
 産米増殖計画 22~27, 103, 204~206,

208, 214, 232, 236, 248, 253, 260, 387, 388
 三面一枚計画 272, 276, 284, 301, 316

し

自給肥料 17, 232
 時局関係全鮮農山漁村振興関係官会同 404
 始政五年記念朝鮮物産共進会 126
 自宅実習 164~166
 自治的要素 212, 228
 市町村農会 227, 241, 245, 246
 実科教育ニ関スル件 303
 実業科 140, 145, 146, 149, 150, 308, 367
 実業学校(韓国) 61, 62
 実業学校規則(朝鮮) 114, 115, 178
 実業学校規程(朝鮮) 257
 実業学校教員講習会 160
 実業学校令 13, 13, 299, 344
 実業学校令(韓国) 61
 実業学校令施行規則(韓国) 61
 実業教育重視方針(朝鮮) 190, 271, 366
 実業教育の振興 149, 290, 291, 293, 295
 ~298, 306, 314, 328
 実業教育費国库補助法 13, 301
 実業補習学校 13, 257, 273, 305, 307,
 311, 314~317, 329, 388, 390
 実業補習学校学則標準(江原道)
 343~345, 348
 実業補習学校学科課程標準 301
 実業補習学校(韓国) 62
 実業補習学校規程 298, 300, 301
 実業補習学校規程(韓国) 62
 実業補習学校教員養成所 257, 307, 391
 実業補習学校教員養成所令 301
 実業補習学校公民科教授要綱 300
 実業補習学校施設経営要項(江原道)
 343, 344
 実業補習学校長会議 349, 352
 実業補習教育
 296~298, 300, 343, 350, 379
 十個養蚕 164, 165
 実習地 117, 156, 157, 185, 186, 190, 285,
 304, 334, 369, 386
 実力養成運動 214

支那本部	41, 42, 44
地主会	127, 169, 224
下総開墾	7
下総牧羊場	8
車贊館蚕業出張所	253
就学年齢	160, 161, 273, 287, 311, 317, 339, 342
就学率	170, 174, 191, 299, 302
修業年限の延長	276
終結教育	152, 190, 311
修信使	20
『重要作物分布概察図』	38
手工科	140, 143, 145, 146, 148, 278, 282 ~285, 304, 327, 338
出張所	57, 107, 108
種苗場官制(韓国)	59
順安公立普通学校	144, 164
春川公立農業学校	329, 331
準必修科目	94, 139, 145, 153, 190, 304, 327, 386
小学校(朝鮮)	157, 159, 160, 169, 325, 327
小学校令	145, 146, 298
商業科	140, 143, 145, 146, 279, 282, 304, 336, 338, 363, 366~369
常時湿田	14, 16
職業科	140, 273, 373, 380, 388, 390
職業教育	298~300, 302, 312, 317, 350, 352, 388
殖産契	403
殖産興業政策	6, 8
女子蚕業講習所	107, 108, 250
書堂	172
初等学校農業教育規程(黄海道)	342
『清韓実業観』	41
『清韓実業論』	384
深耕	15, 17
紳士遊覧団(朝士視察団)	20
尋常小学校	94, 145, 146, 150, 152, 160, 190, 258, 277, 301, 307
眞寶公立普通学校	162
森林組合	224, 396, 397
す	
水原高等農林学校	291, 307
水原高等農林学校附置実業補習学校教	

員養成所規程	307
水原農林学校	39, 65~67, 160, 385
水原農林専門学校	112~114, 254, 285, 395
せ	
清州公立農業学校	120
精神教化	153
西鮮支場	250
生徒組合小作	166, 167
生徒募集	119, 121, 187
青年	161, 184, 190, 191, 328, 339, 342, 358, 386
青年学校	301
青年訓練所	301
青年団体	299, 300
井邑公立農業学校	295
設置数(簡易実業学校)	180
設置数(実業補習学校)	354
設置数(普通学校)	170
選考基準	119, 120
全国農事会	12, 239
全国農談会	10
全鮮内鮮人実業家第二回懇話会	215
全鮮農業者大会	238, 239, 395
千齒扱	97
洗浦牧羊支場	108, 250
鮮米協会	90, 220
専門学校令	13
そ	
総会(農会)	226
総代会(農会)	227, 241
卒業生指導	167, 168, 371, 372
卒業生指導学校	371, 373
卒業生指導制度	361, 380, 388, 390
た	
「第一期計画」	23, 215~217, 219, 220, 230, 231, 259, 387
大邱支場	107~109
大邱農業専門学校	395
第二次日韓協約	21, 39, 54
大日本農会	10, 12, 13
打稲法	97, 99~101

多摩錦 95, 163

ち

畜牛改良増殖奨励ノ方針 87

畜牛再共済事業 406

畜産同業組合 128, 224, 396, 397, 399

地租改正 9, 22

千葉県立園芸専門学校 13

地方改良運動 148, 299

地方支会 65, 123, 220

地方実習地 166

中学校 113, 114, 161, 257

中堅人物 24, 314~317, 344, 348, 352, 358, 361, 370, 377, 379, 388, 390

中国(清国) 36, 38, 41, 44, 45

忠清南道公立農業学校 294

調製方法 90, 93, 97, 103, 130, 311, 386

朝鮮牛 39

朝鮮教育令 114, 115, 141, 150, 151, 153, 178, 189, 276, 327

朝鮮教育令(第二次) 180, 254, 257, 272, 273, 277, 289, 298, 316, 327, 328, 354, 355

朝鮮産業組合令 205, 224

朝鮮山林会 397, 402

朝鮮重要肥料業統制令 406

朝鮮殖産銀行 230

朝鮮総督府勸業模範場官制 61, 106, 111

朝鮮総督府諸学校官制 254, 395

朝鮮総督府農事試験場官制 250

朝鮮総督府農林学校専門科規程 61, 113

朝鮮窒素肥料株式会社 402

朝鮮土地改良株式会社 23

朝鮮農会 65, 169, 224, 236, 238, 352

朝鮮農会創立総会 224

朝鮮農会第二回総会 126

朝鮮農会第三回総会 220

朝鮮農会第四回総会 220

朝鮮農会農家生産物販売並農業用品購買斡旋事業規程 400

朝鮮農会令 296, 388

朝鮮農会令施行規則 225, 407

朝鮮農業教育研究会 291, 293, 295

朝鮮農業教育研究会趣意書 291

朝鮮農業倉庫業令 243

朝鮮農地令 239

朝鮮副産品共進会 220

朝鮮米穀倉庫株式会社 243

朝鮮米穀倉庫計画 242

朝鮮米穀配給調整令 406

朝鮮臨時肥料配給統制令 406

朝鮮総督府専門学校官制 112, 113

長湍公立農蚕実修学校 358

鎮南浦公立普通学校 144, 154

つ

通常議員(農会) 226, 227

通俗教育 299

通俗農談会 169

て

帝国農会 12, 222, 226, 227, 239, 245, 404

堤堰 103

定平公立簡易農業学校 184~186

定平公立普通学校 184

鉄原公立農蚕実修学校 345, 348

天水田 103

デンマーク 293

と

道学務課長会議 274

統監府勸業模範場官制 54

東京高等農学校 13

東京帝国大学農科大学 38, 45, 49, 50

東京農業大学 13

東京農林学校 13, 36

道視学打合会議 351, 362

道視学官会議 296, 306, 308, 342, 362

道種苗場 94, 108, 109, 169, 248, 249, 254, 352

道種苗場設置並道種苗場補助費交付規程 109

統制機関 405~407

道知事会議 211, 235, 295, 297, 305, 308, 353, 361, 395, 400

蘆島園芸支場 108, 250

蘆島園芸模範場 55, 57, 107

蘆島支場 107, 108

道徳教育 149, 153, 190

道農会

219, 220, 224, 236, 240~243, 245, 399	
道農事試験場	254
東洋殖産株式会社(東拓)	104, 220, 230
東洋殖産株式会社土地改良部	23
徳源園芸支場	108, 250
徳源支場	107
特別議員(農会)	226, 227
土地改良会社	216, 220
土地改良事業	18, 23, 205, 216, 217, 220, 230, 248, 257, 297, 311, 387
土地改良部技術員	257
土地調査事業	22, 23, 25~27
取香種畜場	8
な	
内藤新宿試験場	8
内務省	8, 10, 13, 148, 299
南鮮支場	253
に	
日本国民高等学校	348
任意団体	128, 211, 212, 219, 387
認可主義	227
任命主義	227
の	
農会技術員	241, 246
農会に対する論達	19, 241
農会費	218, 219, 222, 223, 225, 226
農会法	11, 12, 212, 222, 225~227, 241
農会令(日本)	12
農学会	10
農業移民	43, 44, 46, 48
農業科	94, 271~273, 275, 295, 296, 302 ~304, 311, 312, 316, 317, 325, 327~ 329, 335, 336, 338, 362, 363, 366, 367, 369, 380, 386, 390
農業学校	13, 94, 160, 169, 177, 188, 278, 293~295, 307, 329, 385
農業学校・簡易農業学校教授要目	115, 116, 178, 187
農業学校規程(日本)	13, 258
農業学校構想(韓国)	48
農業学校長会同	116, 119
農業技術官会同	122, 210

農業教育実施規程(平安南道)	343
農業教育振興実施規程(江原道)	331, 334~336, 343, 379
農業教育の振興	292, 331, 333~335, 343, 348
農業教員養成所	391
農業実習	116~118, 144, 153~157, 160 ~162, 173, 180, 184~186, 190, 191, 271, 276, 290, 313, 314, 327, 334, 386
農業手工	338
『農業図絵』	99
農業生産力の向上	3, 4, 6, 14, 15, 20, 26, 27, 89, 230, 232, 249, 385
『農業全書』	97
農業倉庫	242, 243
農業倉庫共同販売規程準則	243
農業補習学校	13, 294, 295, 299, 331, 354, 355, 358, 359, 370
農業補習教育	293~295, 329, 331, 343
農区(農区制度)	9, 11, 12
農山漁村経済更生運動	24
農山漁村報国宣誓式	402, 404
農産物出荷団体助成事業	400
農事会(農談会)	9
農事改良事業	204, 205, 230, 310
農事改良低利資金	230~232, 260, 388, 399
農事改良の強制的実施	18, 19, 21, 26, 128, 130, 386
農事試験場(韓国)	55
農事試験場官制(日本)	11
農事模範場(韓国)	44, 45
農商工学校	60
農商工学校官制	60
農商工学校規則	60
農商工学校附属農事試験場官制	55
農商務省	10, 13, 44, 45, 52, 66, 67
農商務省農務局	38, 41, 49, 50, 67, 222, 385
『農政新編』	21
農村振興運動	22, 24~26, 140, 236, 389, 395, 396, 402, 403, 405
農民日	238
農務局仮試験場	11
農務局重要穀菜試作地	10

農務牧畜試験場 21
 農林学校官制 60
 農林学校規則 60, 61

は

販売購買事業 396, 399, 400, 402~404

ひ

種抜 92
 一坪農業 139, 164, 165, 190
 日ノ出 87, 95
 評議員(農会) 227
 肥料の改良 90, 102
 肥料配給事業 400

ふ

状 103
 福岡農法 15
 副会長(農会) 226, 227
 府郡島農会 219, 220, 224~226
 府県農事試験場 11
 府県農事試験場規程 11
 府県令 19
 普通学校 24, 62, 94, 111, 115, 258, 271
 ~273, 275, 276, 302~304, 307, 311~
 317, 325~329, 335, 336, 338, 342, 345,
 355, 363, 370, 371, 386
 普通学校規則 141, 143, 153, 277
 普通学校規程 273, 277, 279, 303, 328, 335
 普通学校教監講習会 151
 普通学校入学者年齢 288, 339, 342
 普通学校農業施設標準(咸鏡南道)
 154, 155, 157
 『普通学校農業書』 94, 99, 154
 普通学校の増設 284, 285, 304
 普通学校令(韓国) 150
 府農会(農会) 224, 226, 407
 部門別農業団体
 126, 127, 211, 219, 224, 388
 汶山公立普通学校 154, 373, 377

へ

米穀貯蔵共進会 238, 242
 米作改良増殖奨励ノ方針
 87, 90, 93, 97, 386

平壤公立農業学校 169, 295, 359, 372
 平壤支場 107~109

ほ

報恩公立普通学校 163, 164
 法認 12, 128
 報聘使 21
 北鮮支場 254
 戊申詔書 139, 190
 北海道帝国大学 247

ま

満洲 41, 42, 44, 104

み

未開地イメージ 40, 43, 44, 103, 104, 384
 三田育種場 8
 民部省 7, 13

む

筵 88, 92, 97, 99, 386

め

明治農政 6
 明治農法 16~20, 89, 95, 102, 130, 232,
 260, 376, 384, 388, 409
 棉作改良普及及奨励ノ方針 87
 棉作組合 127, 224, 236
 面農会(朝鮮) 219, 240, 245

も

木浦支場 107, 108
 木浦棉作支場 108, 250
 木浦棉作支場龍岡出張所 250
 木浦臨時棉花栽培所 59, 107
 盛岡高等農業学校 13
 文部省 13, 299, 343, 358

や

役員(農会) 226

ゆ

優良品種
 87~95, 97, 130, 232, 248, 311, 386, 387

	よ	
養鶏(実習)		164, 165
養蚕組合		128, 236
四年制普通学校		279, 283, 284, 303, 304, 317, 334, 335
四大要綱(勸農方針)		85, 86, 386
	ら	
蘭谷牧馬支場		108, 250
	り	
龍岡棉作支場		254

龍岡棉作出張所	250, 254
龍山支場	107, 108
臨時教育審議委員会	361
臨時教育調査委員会	277
臨時教科書調査委員会	277
臨時朝鮮人産業大会	214
	ろ
老農	9, 10, 15, 16, 384
	わ
早神力	87, 88, 94, 95, 166, 386

◎著者略歴◎

玉井 浩嗣 (とい ひろつぐ)

1972年(昭和47)大阪市生まれ。
神戸大学文学部史学科東洋史学専攻卒業, 同大学院文学研究科(修士課程)を経て, 文
化学研究科(博士課程)修了, 博士(学術)。
現在, 熊本学園大学外国語学部准教授。専門は朝鮮農業史。

〔主要論文〕

- 「一九二〇年代における朝鮮総督府の勸農行政機構——「産米増殖計画」と朝鮮農会
令」(『朝鮮学報』181輯, 2001年)
「朝鮮農会の組織と事業——系統農会体制成立から戦時体制期を中心に」(『神戸大学史
学年報』22号, 2007年)
「併合前後期の朝鮮における勸農体制の移植過程——本田幸介ほか日本人農学者を中心
に」(『朝鮮学報』223輯, 2012年)
「植民地期朝鮮における普通学校の農業科と勸農政策——一九一〇年代を中心に」(『熊
本学園大学文学・言語学論集』21巻1号, 2014年)

しよくみん ち ちようせん かのうせいざく
植 民 地 朝 鮮 の 勸 農 政 策

2018(平成30)年7月25日発行

著 者 玉井 浩嗣

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-533-6860(代表)

装 幀 白沢 正

印 刷 株式会社 図書印刷 同朋舎
製 本

© H. Doi 2018

ISBN978-4-7842-1948-3 C3021